

# 第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成27年度 第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

## 1. 日時

平成27年5月29日(金曜日) 13時30分～15時30分

## 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

## 3. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。

## 4. 主な意見

- カラマツについては、原木の消費量が昨年よりも落ちており、在庫量は、増えてきている。今後の需要動向が見えにくい部分もある。
- トドマツについては、周囲から聞こえてくる話や2次加工で建築材の加工を扱っている視点からは今のところ状況は落ち着いていて、木材供給調整の必要はないと思っている。また、本年度からバイオマス発電が本格的に稼働するので原木集荷も始まる一方で、産業用資材も比較的安定した需要がある状況なので材の供給は増やすことはあっても減らすことは出来ないのではないかと。
- 流通の面から見ればトドマツ・カラマツについては、落ち着いた状況だと思っている。輸入材に比べて為替のメリットもあり、とりあえずは道内のカラマツが使用されると思っている。
- 製品の動きは、ここ数年で1番悪い状況であるが、国内の全体的な景気を考えると、このままでは終わらないだろうという期待感もある。
- 製紙向けの丸太については、集荷・在庫とも計画どおり推移している状況だが夏以降バイオマス発電原料の集荷が本格化すると製紙原料への影響は避けられないと危惧している。  
原料材の集荷が増えることが確実に見込まれるので、造材会社、運材を行う業者探しに力を注いでいる。
- バイオマス発電施設が、本年度から本格稼働していくので、発電施設へ原料を安定的に供給することを考えると、量もコストも含め北海道の森林面積の55%を持つ国有林に期待している。

- 増加するバイオマス事業にどのように対応していくか。バイオマス資源の量的確保と住宅用資材の確保などを組み合わせながら、道産材の供給を図っていく取り組みが必要。
- 材の搬出時期が重なってしまう状況の中で運材業者や運転者が減少しているため、運材業者待ちという現象が起きている。昨年は年度内に運材出来なかった現場もあったとの事なので、今年はどうに対応していくか大変重要。
- 運材関係は不足感があり各地区でも足りていないと聞いている。道庁の支援により最近、トラックの後ろにグラップルが付いている車両の導入にも補助金が出るようになった。トラック運送業者も林業関係者と考えて支援して頂ければ運送業者も、グラップル付きのトラックを買い入れるのではないかと思う。それによって、幅が広がれば良いと考える。
- 供給体制を見直して準備をしていかないと、いざ供給調整をする段階で急遽、対応出来る事では無いと思う。民間の体制整備と国有林、道有林の出材する側の体制整備を情報交換をしながら効率的に行うということが必要。